

令和6年度 八重山商工高等学校（定時制）
学校評価アンケート結果概要

令和7年3月17日

1. アンケート回答人数（休学除く）

| 生徒（50名） | 保護者（50） | 教職員（17名） | 学校関係者 |
|---------|---------|----------|-------|
| 43名 | 16名 | 17名 | 8名 |

2. アンケート実施時期

令和7年1月22日（水）～2月3日（月）

3. アンケート項目

生徒は、＜生徒活動 教育活動 家庭状況＞の評価項目群に22項目。保護者は、＜生徒活動 教育活動 家庭状況＞の評価項目群に22項目。教職員は、＜教育目標 学校運営 教科指導 健康安全 進路指導 生徒指導 教育相談・中途退学対策 危機管理 家庭・地域との連携 その他 働き方改革3軸・6視点＞の評価項目群に30項目を設定。

4. 統計処理の方法について

アンケートの配点を「そう思う→4点」「ややそう思う→3点」「あまり思わない→2点」「そう思わない→1点」として数値化を行い、平均点を算出。学校関係者は「そう思う→4点」「やや思う→3点」「あまり思わない→2点」「そう思わない→1点」

5. 評価結果の状況

(1) 全体的概要

○アンケート回収率は、生徒86%、保護者32%、教職員100%である。

○3者アンケートの全項目の評価平均値は全校生徒3.0(3.3)、全保護者3.2(3.4)、全教職員3.5(3.3)、となっており、生徒・保護者は昨年度を下回っている。

○生徒アンケートでは、殆どの項目で昨年の評価点を下回っている。要因の一つとして、回答率が上がったことと考える。昨年の評価点を下回りかつ、平均3点未満は8項目あり、一つ一つの現状把握と学校・家庭連携による改善に向けた取組が必要である。特に、生徒活動ではNo3(進路目標)は、評価点が最も低く、早期進路希望の決定に向けた取組が必要である。また、No7(部活動)は、部活動参加者が増えており、今後の活躍に期待したい。次に、教育活動で平均3点未満は、No16(進路情報)・No17(不登校対策)・No19(マナー指導)で、それぞれ、定時制における重点課題として、自治体や関係機関等と連携して取り組みを強化する。

○保護者アンケートでは、生徒活動で、No2(学習)、No5(部活動)、8(給食)の質問で生徒アンケート同様に昨年の評価点を上回っている。また、教育活動では、No14(基礎基本)、15(PTA活動)、16(進路情報)が昨年評価点を上回っている。

昨年の評価点を下回りかつ、平均 3 点未満は No1(進路目標)、No7(携帯マナー)の 2 項目である。進路目標の早期決定には保護者と情報を共有し、各家庭におけるキャリア教育の充実を図りたい。携帯マナーについては、依存症対策の講話など引き続き粘り強い指導を行っていく。

- 職員アンケートでは、25 項目中 13 項目で昨年度を上回り、追加項目も含め全体平均点は 3.5 である。評価の低い項目は、昨年同様に No16(生徒指導)で、定時制特有の課題であり、保護者連携を通して、改善に取り組む必要がある。

教育計画における成果として、夏季集中授業及び実務代替・技能検定等を生かした単位取得や通級指導に関わる職員研修が計画的に実施できた。課題としては、学校 HP やパンフレットを活用した適宜情報発信の必要がある。

教科指導における成果として、1 つは自立活動を起点とした教科指導を通して、個々の実態に応じた授業が実践できたこと、2 つは検定試験受験者数の増加である。課題としては、引き続き、1 人 1 台端末を活用した授業の工夫改善に取り組む必要がある。

健康安全では、指導充実に高評価であるが、生徒・保護者における同内容の結果も分析し、さらなる成果拡大に繋げたい。

危機管理体制における成果としては、コンプライアンス研修等の充実のため、毎週金曜日に職員が講師役となり事例報告等を行った。

その他の項目として、令和 6 年度は部活動や生徒会の取り組みにより、学校行事が充実し、学校活性化につながっていると評価を得ている。

最後に今年度から追加項目である働き方改革 3 軸・6 視点については、個人の裁量の確保や教材研究の充実に繋がる取組を職員で構築していきたい。

- 学校関係者アンケートでは、追加した 5 項目(働き方改革)について評価内容検討の要望があり、今年度は未評価の状態となった。課題として、高校生における闇バイトの事案も生じていることから関係機関と連携した金融リテラシー向上の取り組み充実及び保護者アンケート回答数増に向けて工夫改善が必要である。学校への取り組みに関する意見交換では、定時制生徒達の頑張り、学校運営に関する激励をいただいた。

